

プログラム紹介

医学部医学科在学時に選択できる二つのプログラムを紹介します。

一歩早く 基礎研究者へ

研究者養成プログラム (MD-PhDコース)

医学研究を志する医学科学生に対し、早期に研究の機会にふれ、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手研究者(基礎医学分野)を養成することを目的としたこのコースは、**医学科6年次に在籍してそのカリキュラムを履修しながら、大学院博士課程必修科目(共通コア科目8単位)を履修することができます。**

医学科5年次・6年次に特別選考試験が実施され、原則として返還の必要のない奨学金(大学院博士課程の入学検定料、入学金および大学院入学後計3年間の授業料相当分、6年次の履修に係る経費の助成を目的とした支援金を所属教室に)が給付されます。

特徴

- 医学部卒業年度は同期生と一緒に(医師国家試験受験可能)
- 入学金・授業料相当分の奨学金支給
- PhD取得後、卒後臨床研修も可能
- 優れた研究実績をあげた方を、特任助教に採用(条件あり)

医学部 1年次カリキュラム 2年次カリキュラム 3年次カリキュラム 4年次カリキュラム 5年次カリキュラム

6年次 選択実習I・II 臨床実習評価試験 6年次カリキュラム

7年次 8年次 9年次 10年次

特別選考試験 (年5名限度) 8月実施の大学院博士課程入試

研究者養成プログラム 大学院共通コア

大学院3年間のプログラム (計4年間の研究)

卒後臨床研修

PhD称号 特任助教へ採用も可能(条件あり)

奨学金授与

○現行の選択実習の枠を基本に基礎医学系分野において研究(大学院共通コア科目の修学前履修を含みます)

○特別選考によって大学院へ正式に進学

○進学要件は6年次に「大学院共通コア科目」の聴講(修学前履修)を推奨

○3年間の短縮修了制度を推奨

一歩早く 臨床志向型研究者へ 研究志向型医師へ

CLARCプログラム

CLARCプログラムは、**臨床研修2年目に大学院に入学し、臨床研修と大学院での学修を併行して行えるプログラム**です。

臨床研修を主体とし、平日の17時以降に大学院の講義・研究指導を受けます。

このプログラムを選択するためには北海道大学病院の卒後研修プログラムのうち、2年目に北海道大学病院に在籍する研修コースを選択します。

地域医療研修やプライマリ・ケア/初期救急での1~4カ月の期間は一時大学院での履修を中断できるので、安心して研修に従事できます。また、基礎系教室の教員も指導教員として選択できます。

医学部6年次 医学部医学科 初期臨床研修2年目に北大病院に在籍するコースを選択

医師国家試験

卒後1年次 初期臨床研修

卒後2年次 大学院博士課程 CLARCプログラム (初期臨床研修2年目から博士課程に入学)

卒後3年次 後期臨床研修 (大学院博士課程)

卒後4年次 大学院博士課程 (臨床研修同時進行)

卒後5年次 大学院博士課程

卒後6年次以降

臨床志向型研究者/研究志向型医師/医学研究者・教育者 など

MD-PhDコース修了者

北海道大学大学院医学研究院 免疫学教室特任助教
高島 謙さん

「大切なこと」を探し求めて

私は2017年3月に博士課程(MD-PhDコース)を修了し、同年4月より免疫学教室の特任助教として研究に従事しています。医学部では卒業生の大半が臨床の現場に出るため、私のように初期研修をせずに基礎研究の道へと進むことは珍しいかもしれませんが、基礎研究の世界のスピード感と、「大切なこと」を探し求めて妥協なく追求していく研究者の方々の生き方に触発され、基礎研究へ進むことを決意しました。

現在は自然免疫シグナルの制御機構についてマウスモデルを用いた解析を行なっています。博士課程では分子生物学的な解析が中心でしたが、生体レベルでの炎症制御を明らかにするため、研究手法の幅を徐々に広げている段階です。

まだまだ一人前には程遠いですが、「大切なこと」とは何なのか常に自分に問いかけながら目の前の不思議を追い続けていきたいと思っています。

CLARCプログラム1期生

旭川医科大学病院 病理部
湯澤 明夏さん

私たちがCLARCプログラムを選択した理由

私は学生時代から病理に興味があり、初期研修が終わったらすぐに病理の大学院に進もうと思っていました。そのため、このCLARCプログラムができたことを知り、初期研修をしながらも大学院に進める、卒後5年でちゃんと初期研修も修了して大学院も卒業できることが非常に魅力的に感じられ、選択しました。

北海道大学大学院医学研究院 分子病理学教室
木内 隆之さん

病理は基礎研究と密接に関係した分野であり、病理を目指すようになった頃から、初期研修を修了したらすぐに大学院で研究を行おうと思っていました。そのような私にとって、一年でも早く研究の世界に足を踏み入れることができるCLARCプログラムは非常に魅力的な制度に感じられました。